

## 神奈川県におけるハクビシンの生息状況 (補遺 2)

中村 一 恵 ・ 石 原 龍 雄

Kazue NAKAMURA and Tatu Ishihara: Occurrence Records of Masked Palm Civet (*Paguma larvata*) from Kanagawa Prefecture (Suppl. 2)

### はじめに

先に筆者らは神奈川県におけるハクビシン(*Paguma larvata*)の生息状況を報告した(中村・石原ほか, 1989; 中村, 1990)。本報告はこれらに続く第3報である。第3報では、1989年から1990年までの間に県立自然保護センターに保護された個体に関する資料と、1989年から1991年までの間に箱根・小田原地区から得られた生息に関する資料を報告する。前者については中村が、後者については石原が収集に当たった。

近年、相模川以東の藤沢市および鎌倉市からハクビシンの生息および繁殖に相当する記録が得られたことは、中村(1990)によって報告されたが、新たに茅ヶ崎および横浜市南部と横須賀市から生息の記録が得られ、ハクビシンの分布拡大の傾向は現在も持続されている。これらについても報告する。

報告に先立ち、資料の利用をご快諾下さった県立自然保護センター赤羽尚夫所長と、資料の整理等にご協力下さった同センター野生動物課の皆さんに厚く御礼申しあげる。並びに貴重な情報をお寄せ下さった一寸木肇、林公義、柏木喜重郎、岸一弘、中野谷幸子と、写真を提供下さった十文字修の諸氏に対し衷心より御礼申し上げます。

### 結 果

1. 県立自然保護センターにおける保護状況および箱根・小田原地区における生息状況

県立自然保護センターに保護された個体の状況を表1に示す。保護場所の内訳は、厚木市8件、平塚市2件、愛川町2件、津久井町・秦野市・相模原市・二宮町各1件の計16件であった。前回の報告(中村・石原ほか, 1989)と比較すると、津久井町と愛川町が新たに市町村単位の保護場所として加わった。違法に当たる飼育個体の保護例もあった。このことから個人的に飼

われたものが放たれたり、逃げられるなどのケースもあるものと思われる。

箱根・小田原地区における生息状況を表2に示す。

箱根町9, 南足柄市4, 小田原市2, 熱海市1の計16例の生息に関する情報が得られた。前回の報告(中村・石原ほか, 1989)同様、皮膚病に疾患していると思われる個体が記録された。1990年に小田原市早川で得られた死体でも脱毛が観察された(表2参照)。交通事故死する個体も前回同様に記録されたほか、人家、お寺、ホテルなどへの侵入例が記録され、市街地における人の生活空間への進出傾向が目立つ。前報(中村・石原ほか, 1989)と本報で報告された箱根町からの記録は19例となった。標高別で示すと表3のようになる。

2. 茅ヶ崎市および横浜南部と横須賀市からの記録



図1. 堀に落ちて脱出できずにいるハクビシン。横浜市栄区小菅ヶ谷町(十文字修氏撮影)。

記録1：1990年8月28日。茅ヶ崎市甘沼。茅ヶ崎市堤在住の古橋哲雄氏が仕事場に向かう途中、道端に倒れていたハクビシンを見つけ、茅ヶ崎市役所広報課に持ち込んだ。頭胴長500mm、尾長380mmの雌成獣であった(岸, 1990)。腰の骨が折れていたことから、交通事故死と思われる。標本は茅ヶ崎市文化資料館に保存されている。

記録2：1991年3月18日。横浜市栄区小菅ヶ谷町。県消防学校の訓練用の堀に落ちていたハクビシンを同学校の職員が発見した。堀(幅1m、長さ3m)の深さは2mあり、ハクビシンはこの中に落ちて脱出できずにいた(図1)。この個体は救助されて放獣されたが、1週間後にさらにもう1頭が同じ堀に落下した。同一個体であったかどうかは不明である。

記録3：1991年11月18日。横須賀市上町。同町の中里トンネル付近にうずくまっていた幼獣が市立不入中学校生徒により発見された。この個体は横須賀市自然

博物館で飼育された後、12月1日に横浜市野毛山動物園に保護収容された(以上、林公義氏私信による)。

### 若干の考察

新たに茅ヶ崎市および横浜市南部と三浦半島の横須賀市からハクビシンの生息に関する情報が得られた。茅ヶ崎市および三浦半島からは今回が初めての記録である。藤沢市から鎌倉市への進出がすでに行われたことから、ごく近い将来に鎌倉から三浦半島への分布波及は予測されていた(中村, 1990)。

以上の記録を追加して、現在のハクビシンの分布を描くと図2のようになる。三浦半島からの記録は1例にすぎないが、ハクビシンの分布拡大の流れから判断して自然分布と思われる。1990年に鎌倉市を対象に、タスキ、アライグマ、ハクビシンの3種について情報の提供を呼び掛けたが、ハクビシンに関しては生息の情報は得られなかった(中村, 1991)。しかし今回、

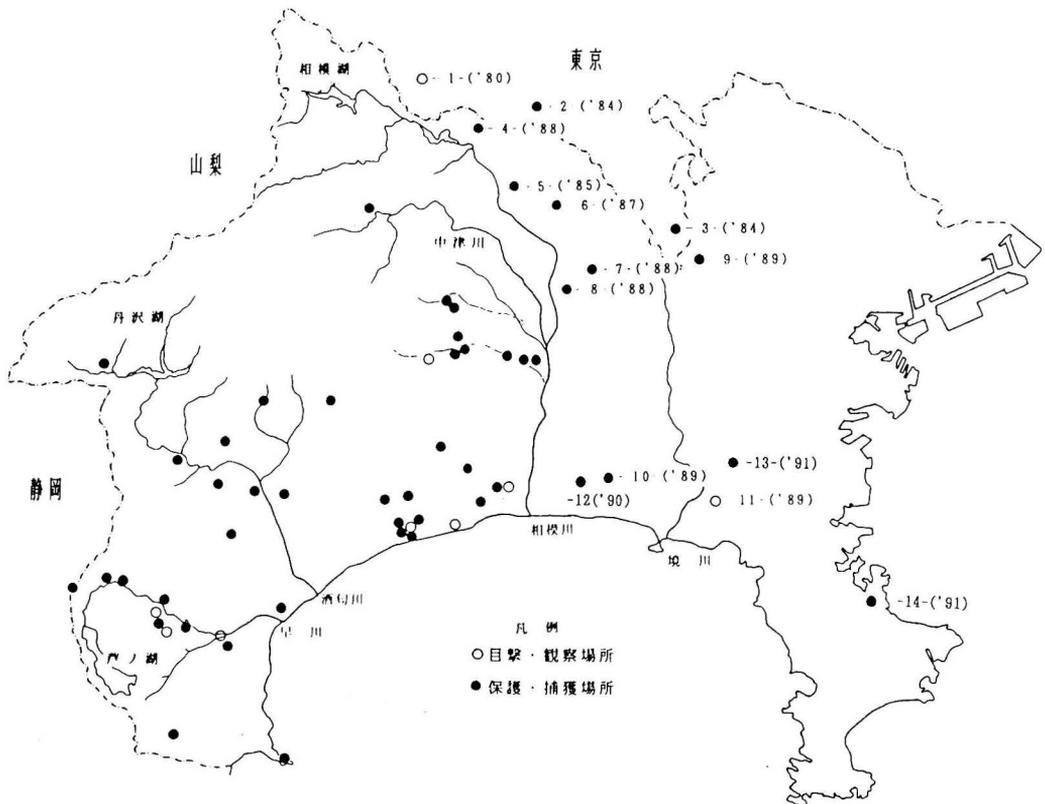


図2. 神奈川県における1991年現在のハクビシンの分布(中村, 1990に追加).

- 1: 高尾山 2: 八王子市野猿峠 3: 町田市成瀬 4: 城山町川尻 5: 相模原市田名 6: 相模原市古山 7: 相模原市相武台 8: 座間市座間公園 9: 横浜市旭区若葉台 10: 藤沢市大庭 11: 鎌倉市植木 12: 茅ヶ崎市甘沼 13: 横浜市栄区小菅ヶ谷町 14: 横須賀市上町

表1. ハクビシン保護状況(1989~90年県立自然保護センターで傷病鳥獣として保護されたもの)

No.	年月日	保護場所	場所の状況	頭数	性	年齢*	保護理由	保護後の状況
1.	89. 5.31	平塚市万田	不明	1	♀	成獣	交通事故. 左後足に障害あり.	死亡6/6
2.	6. 4	厚木市岡津古久	工場敷地内	1	♂	幼獣	植込の中にうずくまっていた. 片方の目が開いていない.	死亡6/9
3.	6.16	厚木市鳶尾	道路	1	不明	—	車の下にいたものを保護.	死亡6/17
4.	7. 8	平塚市紅谷町	パチンコ店	1	不明	—	店内であばれていたのを保護.	放獣7/15
5.	7.30	二宮町一色	不明	1	♀	—	木を伐採したところ. その根元にいたのを88年10月10日に保護し, 飼育していた.	放獣8/4
6.	9. 1	厚木市下荻野	物置	1	不明	—	衰弱してうずくまっていた. 体にウジがわいていた.	死亡9/6
7.	10. 5	相模原市下溝	畑	1	♀	成獣	衰弱していた. センターへ輸送中に死亡.	
8.	11.10	厚木市七沢	市街地	1	♀	幼獣	七沢マート前にいたものを保護. 飼育個体.	放獣90.3/20
9.	12. 2	厚木市内	不明	1			首輪のヒモが木にからまっていた.	放獣12/15
10.	90. 1.13	厚木市小鮎	市街地	1	♀	成獣	交通事故. 公民館前に倒れていた. 右後足負傷.	死亡1/17
11.	2. 3	津久井町関	不明	1	♀	成獣	雪の中でもがいていた. 右後足が麻痺状態で左旋回を繰り返す.	死亡2/5
12.	6. 6	愛川町三増	不明	1	不明	—	ふらふらして歩いていたものをグローブで捕獲し, 保護した.	死亡6/9
13.	6.17	愛川町三増	人家	1	不明	—	屋根裏に住みついたものが落ちてきた.	死亡6/18
14.	8.20	厚木市山際	人家	1	♀		庭で保護. 痩せていた.	死亡8/23
15.	8.29	厚木市上依知	道路	1	不明	幼獣	衰弱してうづくまっていた. 横臥したまま体をくねらせて旋回する.	死亡8/31
16.	11.15	秦野市栄町	人家	1	♂	幼獣	庭においたネコ用のダンボールの中に入っていた.	死亡12/3

\*傷病鳥獣救護記録台帳に「幼獣」と記載された4例中3例について体重記録がなされてあった。それらは、500gr (No.8), 450gr (No.15), 460gr (No.16)であった。その他、2.5kg (No.1), 2.5kg (No.7), 3.9kg (No.10), 3.2kg (No.11)とあったものについては「成獣」と判定した。

表2. 箱根・小田原地区におけるハクシビンの記録状況

年月日	場所*	観察記録	性・測定値 (mm)**
88. 6	箱根町宮城野, 460	干柿にカビが生えたので洗って縁側に干しておいたところハクシビンが食べに来た。皮膚病(?)にかかっている。体に脱毛が見られた。	
89. 5. 24	南足柄市岩原, 40	衰弱しているところを保護されたが死亡。付近で目撃例が数例ある。	♂, 頭胴長536, 尾長354, 耳47, 足91, 体重3.25kg.
89. 7. 4	南足柄市怒田, 70	近くに果樹園のある住宅地で交通事故。死体を拾得(一寸木肇氏)。剥製として保存。	体重2.2kg
89. 7. 8	小田原市城山	人家の天井裏に侵入。9日確認に行ったがスズメバチが天井に巣を作っていたために断念。	
89. 8. 23	箱根町仙石原, 720	衰弱しているところを保護されたがほどなく死亡。がりがりに痩せ、犬歯が折れたり、脱落している。	♀, 頭胴長478, 尾長370, 耳45, 足83, 体重1.45kg.
89. 8.	箱根町仙石原, 660	大型個体。写真により確認。同じ場所で88年に雪の中で小型個体が死亡していたという。	
89. 10. 13	箱根町湯本, 130	お寺に侵入してお供え物を食い荒らす。侵入したまま出られず衰弱したところを発見される。餌や水を与えたが2時間後に死亡。	♀, 頭胴長445, 尾長330, 耳43, 足75, 体重1.16kg.
89. 11. 2	箱根町湯本, 110	ホテルのフロントにケガして弱った個体が入って来る。山へ戻す。	
90. 2. 17	熱海市	熱函道路入口から数100m登ったところで交通事故死していた。右耳が切れていた。	♀幼獣, 頭胴長364, 尾長230, 耳36.5, 足68, 体重1.027kg
90. 4. 23	小田原市早川	人家の屋根の上で死んでいた。体に脱毛が見られた。	♀, 体重2.5kg.
91. 1. 23	南足柄市塚原, 130	人家のそばで死亡していた。外傷なし。	♀, 全長880.
91. 2. 5	南足柄市岩原, 40	八幡神社内で死亡していた。外傷なし。	♀, 全長840.
91. 4. 21	箱根町小涌谷, 570	国道1号線で交通事故死。	♂, 頭胴長495, 尾長412, 耳44, 足81, 体重2.9kg.
91. 6. 16	箱根町仙石原, 640	国道138号線脇で死亡していた。	♀, 頭胴長501, 尾長414, 耳46, 足89.
91. 8. 28	箱根町畑宿, 450	天狗沢, 泥の上に足跡。	
91. 10. 15	箱根町仙石原, 740	19時40分, 成獣が道路を横切って石垣を登る。	

\*場所名末尾の数字は標高(m), \*\*後足長は爪を含めた測定値を示す。

表3. 箱根町における標高別出現記録 (N=19)

年度	標高 (m)		
	≤1000	1000-500	≥500
1973	1		
1979		2	
1983		1	
1984		1	
1987			1
1988		2	3
1989		2	2
1991		3	1
計	1	11	7

鎌倉市に隣接する横浜南部および三浦半島から生息の情報が得られたことにより、相模川以東の県南部地区での生息は持続され、さらに分布の拡大が行われているものと推察される。

ハクビシンの市街地への進出については、前報(中村・石原ほか, 1989)で簡単に触れたが、その傾向は現在も持続されているように見える(表1および2参照)。ハクビシンはまず山地および農村部において密度を増し、ついで都市部に分布を波及させたと推定される。箱根町における生息記録の推移を整理すると、年をおって山地から市街地への進出傾向が認められる(表3)。静岡側から箱根への進出は1965年以降と推定され、確実な最初の記録は1973年に金時山の標高1200mの地点から得られているが(中村・石原, 1989)、その後の記録の多くは500~1000mの範囲から得られている。しかし1987年頃から標高500m以下の低山城からの記録が出始めている。お寺に侵入して供え物を食い荒らしたり、ホテルに接近するなどはその現われであろう。

### おわりに

野生動物のハビタットとしての都市環境は、構造そのものが必ずしも永続的に安定しているとはいえないであろうから、ハクビシンの生態に今後さまざまな変化が起こるものと予想される。ハクビシンに脱毛を伴う皮膚病が発生しているのは、その一つかもしれない。箱根町市街地への進出は1987年頃であることは前記したが、箱根・小田原地区で皮膚病に疾患したと考えられる個体が初めて記録されたのは1987年であり(中村・石原ほか, 1989)、市街地への進出時期と疾病の発生に一致が見られる。また、箱根町内では1988年

頃からタヌキ、イタチ、ハクビシン、キツネなどの交通事故死が急増しているが、これは主にタヌキの死亡例の増加によるものであり、1979年から1991年までの13年間に交通事故死した哺乳類(リス、イタチ以上の大きさのもの)の約半数(49.4%)をタヌキが占めている(石原, 未発表)。ハクビシンの市街地進出時期および疾病の発生時期とタヌキの交通事故死の多発時期とがほぼ一致しているのが注目される。

岐阜県では野性タヌキの11~37%に及ぶ皮膚病(疥癬症)の蔓延が報告されており、公衆衛生上の見地から感染防禦への注意が喚起されている(鈴木ほか, 1981)。筆者らの知る限りでは本県のハクビシンに関するの病理および組織学的な調査はなされていない。タヌキの都市化に似て、ハクビシンが人家に接近したり、人家に住みついたりする例が多々認められている。箱根ではハクビシンの行動圏とタヌキ、テン、アナグマなどの在来種、イヌやネコなどの家畜の行動圏とに重なる部分があるが、スカベンジャー化することでタヌキやイヌなどと接触の機会は増大すると思われる。

都市タヌキ(urban racoon-dog)が生まれたように、都市ハクビシン(urban masked palm civet)が生み出されている。横浜市のような大都市におけるキツネの衰退は著しく(後藤・桑原, 1991)、また市街地のイヌは鎖につながれて管理されているためその生態的地位の確立はほとんどない。その結果、タヌキは都市部においてイヌ型のスカベンジャーとしての生態的地位を維持できていると思われる。タヌキをイヌ型スカベンジャーと見れば、ハクビシンはネコ型スカベンジャーの地位を占めつつあるようにも思われるが、はたしてハクビシンが市街地でスカベンジャーの地位を今後も維持できるのかどうか、伝染病の蔓延などの問題も含めてハクビシンの都市化現象に今後も注目していく必要があるものと思われる。

### 文 献

- 後藤好正・桑原康裕, 1991. 横浜市のホンダギツネについて. 神奈川自然保全研究会報告書, (10): 35-37.
- 岸 一弘, 1990. ハクビシン発見される. 茅ヶ崎自然の新聞, (92): 1.
- 中村一恵・石原龍雄・坂本堅五・山口佳秀, 1989. 神奈川県におけるハクビシンの生息状況と同種の日本における由来について. 神奈川自然誌資料, (10): 33-41.

- 中村一恵, 1990. 神奈川県におけるハクビシンの生息  
状況 (補遺). 神奈川自然誌資料, (11): 75-  
78.
- 中村一恵, 1991. 神奈川県におけるアライグマの野生  
化. 神奈川自然誌資料, (12): 17-19.
- 鈴木義孝・杉村 誠・金子清俊, 1981. 岐阜県下の野  
生タヌキにおける疥癬症の蔓延について. 岐  
阜大農研報 (5): 151-156.  
(神奈川県立博物館・箱根町立大涌谷自然科学館)